

2025年度日系社会研修（多文化共生推進／日系協力型） 日系サポーター コース概要

NO	7
所管センター	関西
分野	教育・行政
研修コース名（日）	①日系ブラジル人児童生徒へのポルトガル語教育 ②日系ブラジル人への生活相談対応
受入人数	1
受入時期	上半期
来日日	2025年5月11日（日）
帰国日	2026年2月4日（水）
提案団体（日）	特定非営利活動法人関西ブラジル人コミュニティCBK
提案団体 ウェブサイトアドレス	http://kobe-cbk.server-shared.com/
研修員必要資格	幼児から高齢者までの幅広い年齢層に対応するために、社会人としての経験が豊かなこと
研修員に必要な実務経験年数	実務経験5年以上
日本語能力（選択） ※日本語能力試験認定の目安参照	N3
ポルトガル語 スペイン語能力	ポルトガル語（母語）
研修目標	①土曜日は母語教室の講師として、ブラジル人子弟に最新のブラジルでの指導方法にて授業に当たる。週日は教材の準備をする。また現状の講師と共に良い指導法を研究する。帰国後にブラジルからリモートで授業が行えるように、日本の現状を学ぶ。 ②電話または来室する相談者にポルトガル語で対応する。個人の悩みを聞くことと共に、日本の公的社会保障制度や在住各国コミュニティ団体の支援状況を学ぶ。現在日系人社会では高齢化問題が発生している。ブラジルでは高齢日系移民対象の施設が存在するが、日本国内にはまだ無い。
期待される成果 （習得する技術）	①②の推進には、日本とブラジルの人的な交流を深めて活動を活性化し、双方のより良い日系人社会を作る必要が有る。ブラジルへの日本移民の歴史は116年を迎え、現地では日系人に対する評価は高い。ブラジルから日本への日系人の大規模な移動は34年になる。第一世代から次の世代に移りつつあるが、国内での日系人の立場はどのようなものであろうか。危惧しなければならない問題が数多くある。 研修員が当法人で研修することにより、日系人の現状を把握し課題の解決にブラジル側で活動することが期待できる。また国内の日系ブラジル人が自信を持って暮らすことが出来るように、特に若者のアイデンティティの確立に良い影響を与えるものと思われる。

<p>研修計画（内容）</p>	<p>①土曜日はCBKが主催する「児童生徒対象の母語教室・母語による学習支援教室」でポルトガル語講師を務める。週日は教材の準備等、教室の運営にかかわる業務を行う。また事務所内で一般事務を行いNPOの運営を体験する。 ②電話または来室による相談には、CBKスタッフと共に対応して現状の把握、解決方法などを学び共有する。増加している領事館へのオンライン申請入力をサポートする。国内の日系ブラジル人の状況を把握するために、CBKスタッフと共に各地の支援団体を訪問する。</p>
<p>研修実施の背景／日本国内の中南米出身者のコミュニティにおける現状、多文化共生等課題解決を推進するにあたっての問題・現状等</p>	<p>①日系ブラジル人児童生徒へのポルトガル語教育（母語・母文化の継承） 日系ブラジル人の児童生徒は日本生まれが多くなっているが、当地区では日本の公立小学校から中・高校へ進学するケースが殆どである。両親が共稼ぎの家庭が多く、保護者から母語教育をうける機会は少ない。学校生活や、友達との交流の中でもポルトガル語を使うことは無い。家庭内での共通言語としてのポ語、また日本で生きていく上でのアイデンティティ確立のための母語教育は必須であるが、このような機会は関西では少ない。 私たちは団体設立以来20数年間、ポ語教育とブラジル文化の継承に試行錯誤を重ねてきた。その結果、講師はブラジル育ちのネイティブであると言う事が絶対要件になった。現在5名の講師が在籍しているが、幼児から高校生までの生徒に対応するためには、新しい知見を持つ講師の増員が必要である。 ②日系ブラジル人への生活相談対応 来日30年を超えた日本での生活だが、ここにきて高齢化問題が浮上してきた。正規雇用についている人は少なく、時間給の良いところを求めて移動する人の割合が高い。貯蓄・持ち家・年金など老後に備えての準備は乏しい。原因は人々の日本語習得状況が悪く、単純労働に明け暮れていたことが挙げられるが、すでに次世代への貧困の連鎖も起きている。私たちは昨年度608件の各種相談を受け付けたが、この内高齢化に伴う案件は増加している。日本語が不自由な人々への支援のために、ポルトガル語での相談員の増強が必要である。 行政サービス支援。ブラジル人が在名古屋ブラジル総領事館に提出する申請書類（パスポート、兵役、婚姻、出生等）は、全てオンラインによる事前申請になっている。しかし、高齢者にはパソコンやスマートフォン等を使えない人が多いので入力のサポートが必要であり、人手がかかっている。</p>
<p>本研修実施の意義 応募者への裨益効果</p>	<p>①本研修で新任の教師が母語教室の講師を務めることにより、生徒の学習意欲が高まる事が期待される。また現状の講師はブラジルの最新の教育方法や教材などを知ることが出来る。応募者は日本国内でのポルトガル語教育の現状を知り、期待されている現地から日本へのリモートでの教室開催等、具体的な方法を修得する事ができる。帰国後は現地で日本語教育者として必要な知見を研修中に学ぶことが出来る。 ②生活相談に対応することで、日系人社会の実態・日本の社会保障や高齢者への支援状況を知ることが出来る。これにより、帰国後も日系人社会での幅広い活動が期待できる。また、研修期間中には、当法人と協力関係のある神戸市内の外国人支援3団体（たかとりコミュニティセンターTCC・神戸定住外国人支援センターKFC・NGO神戸外国人救援ネット）での研修を行う。CBKでは毎年、大学生向けに多文化共生に関する研修会を開催している。この研修に参加して移民の歴史・在住外国人の状況・子どもたちへの教育問題等を学習する。（関西国際大学・大手前大学、各4日間×2グループ）+（神戸大学ブラジルにつながる子どもプログラム、30回）</p>
<p>応募希望者への特記事項</p>	<p>①2023年度に引き続き3回目の研修員受け入れになる。第1回目の研修を通じて得られた知見を生かし、研修員/弊法人双方がより良い成果を得られるよう務めます。 ②研修場所である、海外移住と文化の交流センターは95年の歴史を持ち、移住関連の資料が豊富に保管・公開されている。研修員はいつでもこれらを見学・学習できる。 ③弊法人の運営スタッフ5名の内3名がブラジル生まれ2世。2名はブラジルへの移住体験者であり、全員がポルトガル語と日本語での業務遂行が出来る。両国の生活習慣や文化なども十分理解している。このために研修員は来訪当初から戸惑うことなく研修活動に専念できる。</p>